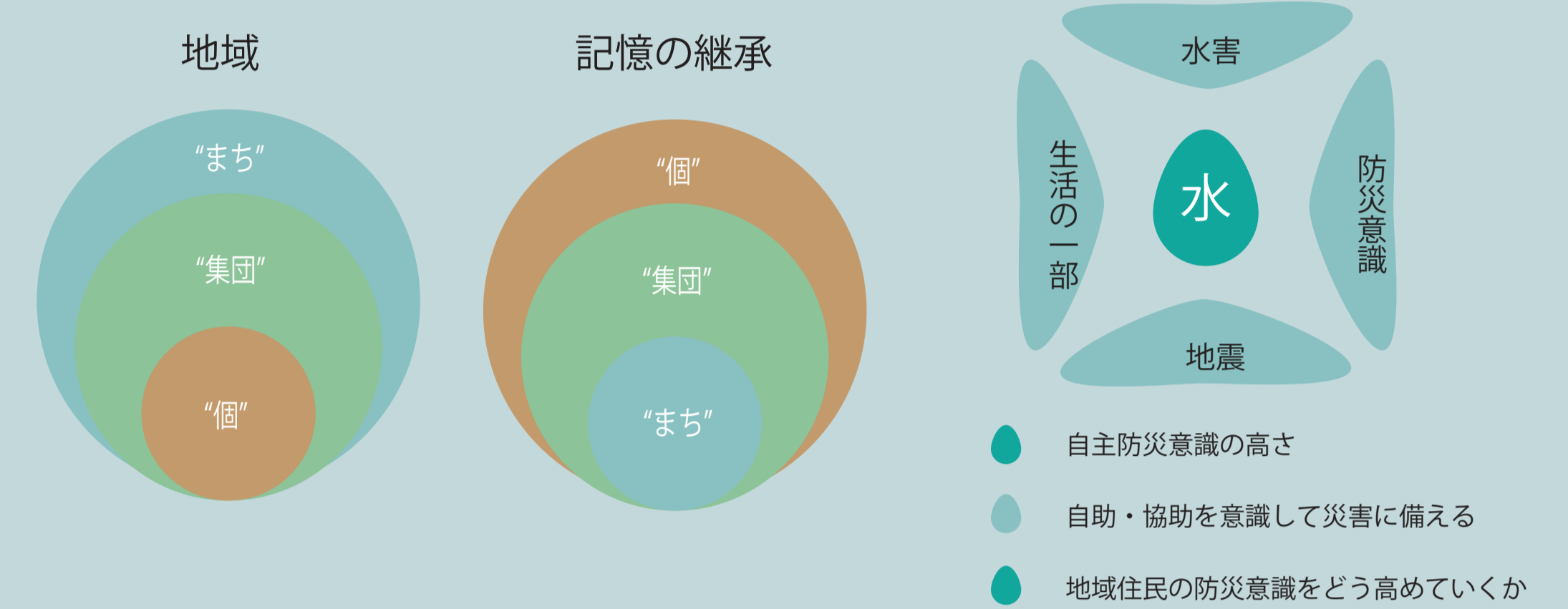
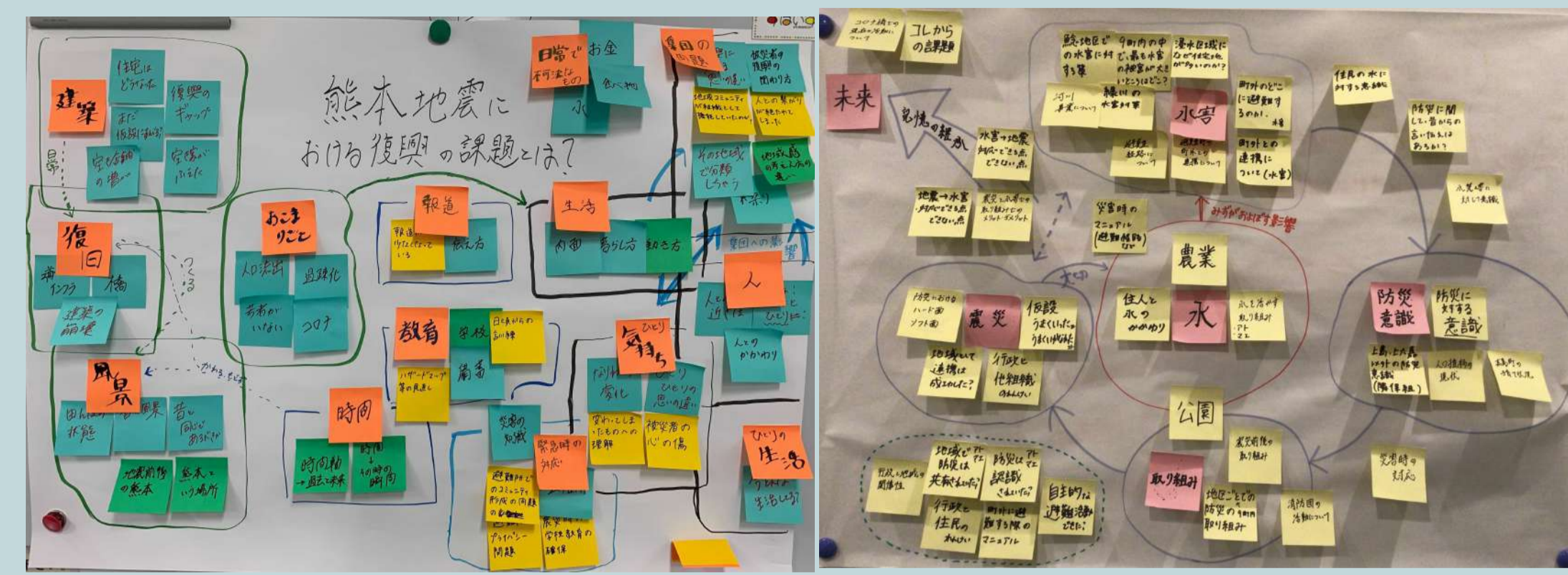


# 笑本から繋ぐ、未来への一歩

B班  
担当地区：嘉島町  
高良幸作 岩下佳澄 村田和泉

## 復興における課題

チームでのワークショップ



この「笑本」では、あなたが主人公です。あなたの周りにあるもの、日常に欠かせないもの、ぎゅぎゅっと集めてこの「笑本」に描いてみてください。

## 主人公になろう

私達が考える嘉島町における提案が、未来の熊本の震災復興や記憶の継承に繋がると考える。「笑本」は、転入者を含めた地域の人たち（家族、単身、夫婦）が当時の記憶と日常を共有する手段として利用してもらおう。"個"から始まり小さな"集団"がどんどん集まり大きな"集団"となりまちに広がっていく。かけがえのない日常を積み重ねていくことで、ひとりの未来をみんな考えていくような提案になってほしい。



## 課題解決のストーリー

笑本の定義  
①家族間の共有  
②地域間の共有（サイトでも見れる）

私達は、「笑本（えほん）」を利用する。小さな集団となる家族間から始まり、徐々に発展し、大きな集団となる地域、まちへ広がっていく。

家族間での「笑本」の定義としては、防災における家族でのルールや振り返りを行い、自分が住む町の日常で大切にしたいものを描く。さらに、所属する集団（学校・会社）の情報を付加することで個のオリジナル性を出す。

地域、まちでの「笑本」は、震災・復興の記憶とともに、色んな人から見た嘉島の日常に触れる。みんなで作っていき。

- ・個を意識した提案  
転入者には、防災知識や震災の記憶を継承が行われるきっかけをつくる  
地域住民は、自分の中に閉じ込めている記憶を誰かに伝えられるようなきっかけをつくる
- ・人との関わりを意識した提案  
転入者と地域住民が、関わる選択肢を増やす
- ・ポジティブに活動する提案  
両者の関わりから、転入者は楽しい学びを得られ、地域住民は前向きな心の復興の徐々に育んでいく。

【中心問題】  
防災意識が高いことから隣保組や自習防災組織などの地域コミュニティ強い地域である。ニュータウン化により、居住者が増える中、昔の住民と新入居者の関わりが少ないと考えられる。

- ・水害や地震を知らない転入者にも、昔から住んでいる地域住民と同じような災害に対する防災意識を持ってもらう。（役場・インタビューから）
- ・震災を経験した住民の心の復興をサポートする（住民・サントリーインタビューから）



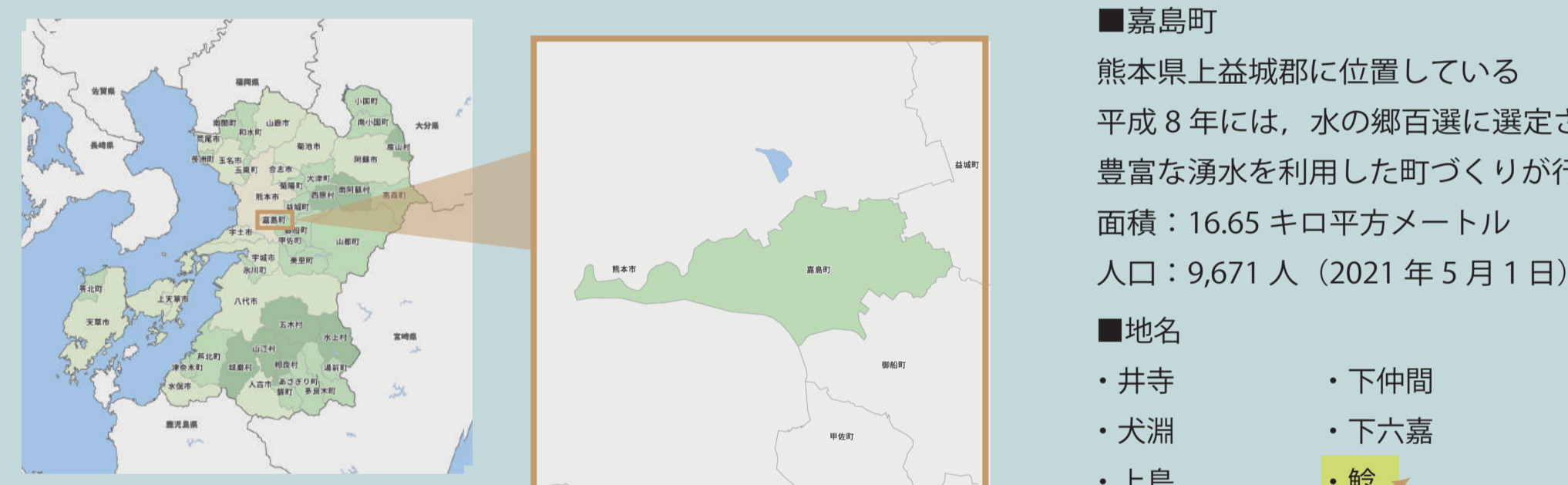
## 提案内容の視点

## 提案の目的と手段

6/9 Thurs..

## サントリーさんインタビュー

震災時、役場との連携を行い、嘉島町だけでなく周辺地域にも物資の支援などを行っていた。震災当時は、県外からの応援もあり、復旧に関しては従業員一同協力して行うことができた。  
今後も、災害に備えて企業間のい太いパイプを繋げていくことが必要であり、災害時の情報交換などを行っていくことが大切であるとのことでした。今回の震災を経験し、災害時にサントリーの工場を避難所として提供していく予定である。  
さらに、嘉島の水の恵を、「冬水田んぼ」のプロジェクトや「水育」プロジェクトを通して子ども達に水のことを学ぶ場を作ったりとの活動を行っている。震災後の復興プロジェクトでは、自分達の記憶を自分たちで共有しあって、それを外部に発信できるようになったときに、心の復興になると考えている。



■嘉島町  
熊本県上益城郡に位置している平成8年には、水の郷百選に選定され、豊富な湧水を利用した町づくりが行われている  
面積：16.65キロ平方メートル  
人口：9,671人（2021年5月1日）

- 地名
- ・井寺
  - ・犬淵
  - ・上島
  - ・上仲間
  - ・上六嘉
  - ・北甘木
  - ・高田
  - ・下仲間
  - ・下六嘉
  - ・鯉
  - ・西村
  - ・三郎無田
  - ・滝河原

■地区別の人口

区 (住居)	世帯数	人口	男女別数
井寺	138	484	11
犬淵	58	141	4
上島	847	2189	34
上仲間	166	531	9
上六嘉	173	1096	11
北甘木	227	517	11
高田	119	216	4
下仲間	117	202	5
下六嘉	281	716	18
鯉	88	210	7
西村	210	384	21
三郎無田	48	115	3
滝河原	126	182	8
合計	3849	9830	153

嘉島の中で震災の影響が、最も多い地域

- 嘉島町役場の人数  
正社員 94人、会計年度任用職員 62人
- 嘉島町の事業所数  
598
- 嘉島町の学校の取り組み  
平成28年地震の風化を防ぐとともに、児童生徒等、保護者及び地域住民の防災意識の醸成を目的に平成30年度から毎年4月を「くまもと防災教育月間」と位置づけ防災教育に取り組んでいます。（熊本県教育委員会を中心に取り組み）

6/8 Wed.

ヒアリング対象地：鯉地区  
水田を主とする農業地帯  
低地のため、大雨の際は川筋が氾濫し、水田や家屋の被害が多かった  
震災時は、嘉島地区の中で一番被害が大きかった地区  
地区をまちあるきして新築の家が多かった

（地域住民の方）  
「もうあんな思いはしたくない」  
「思い出したくない」  
（消防団員の方）  
心のケアがどこまで進んでいるかわからない  
思い起こされる方もいるのでは？  
鯉地区では2人の犠牲者がでている  
地震の際は液状化も考えれる

（保育園延長先生）  
7月までは保育園を閉めていた  
他の兄弟保育園に子供たちは預けていた  
嘉島の中で鯉が一番被害が酷かった

## 地域住民インタビュー

## 嘉島町役場インタビュー

6/2 Wed.

役場の方：2名（防災担当）  
2名（建設担当）

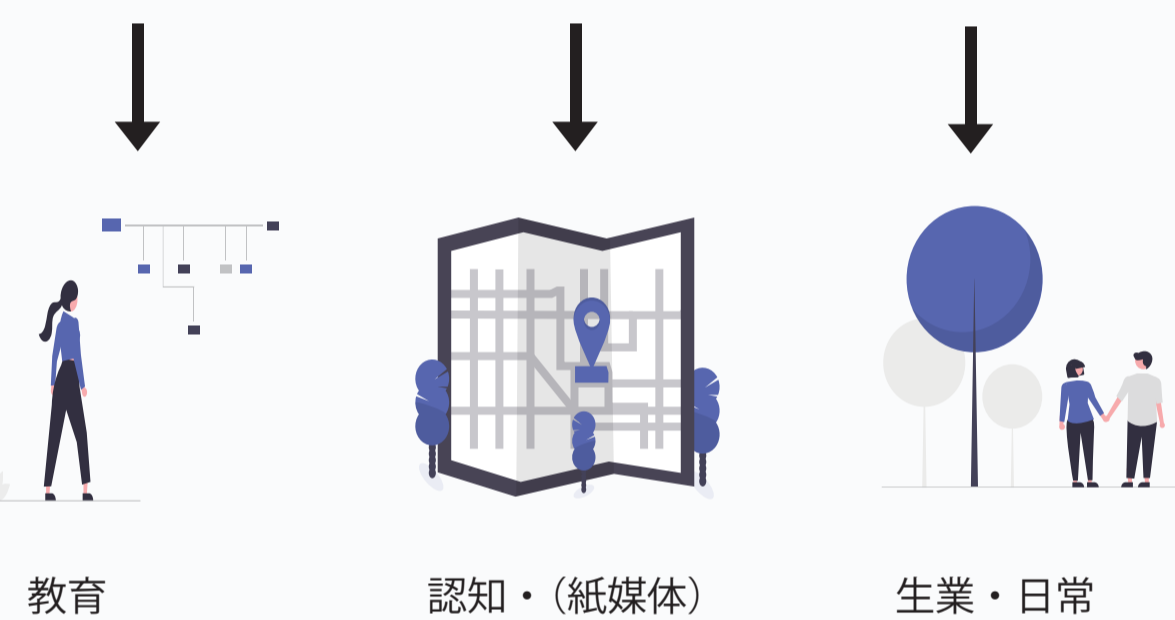
### ■ヒアリング結果

- ・嘉島町の住人は自主防災意識が高い  
→嘉島町が水害常襲地帯だったため
- ・自助、協力を意識して災害に備えている  
→防災を通じた地域コミュニティが強かった
- ・地域住民の防災意識をどう高めていくのか  
→防災意識のなかで自助、協力の意識を持ってもらう

まちや集団の大きい単位ではなく、ひとりひとりの生活や日常、思い、考えといった個の動きが、復興における大きな役割をもつ。「自分ごと」として復興を考えるにはどうすればよいのだろうか。  
わたしたちは、記憶の継承における課題を、個・集団・まちに分類して考えた。



また、記憶の継承という点では、「伝え方」が重要な課題となる。復興と記憶の継承を合わせて、課題設定を、3つ挙げる  
どう残していくか？ どう伝えていくか？ どう関わっていくか？



嘉島町は、30年ほど前は水害の被害を大きく受ける町であった。河川整備が進み、企業の参入、工業地域や商業地域が発展した。熊本市のベッドタウン化、震災後の簡易水道を整備したニュータウン化により、転入者が増加が見込まれる。



- 地下水の持続可能性に向けた支援
- 文化・芸術・スポーツを通じた支援
- コミュニティ支援

